

新規ぶどう生産者の栽培技術習得による 収量向上と面積拡大

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

高島市内のぶどう栽培は、令和 5 年度末時点で面積が 155a、生産者は 12 名と県内では決して多くありません。また、ぶどうは収益性も高く経営的に有望な品目ですが、市内では新たに栽培管理技術を学ぶ機会や生産者同士が相互研鑽する機会がありませんでした。

そこで、ぶどう栽培経験の浅い 3 名をモデル生産者として選定し、安定生産に向けて支援するとともに、関係機関と連携して新規栽培者の掘り起こしを行いました。さらに、生産者の相互研鑽のための組織化を通じて、今後の産地戦略を誘導し、産地の拡大に向けて活動しました。

【普及活動の内容】

(1)モデル生産者の安定生産に向けた巡回・指導

必要な栽培管理技術を自ら考え実践できるよう、モデル生産者 3 名を重点的に巡回し、栽培管理上重要な時期には資料提供や、ほ場での対面指導を行いました。

(2)栽培面積拡大に向けた新規栽培者の掘り起こし

レーク滋賀農業協同組合の協力のもと、「たかしま野菜・園芸塾ぶどうコース(以下、園芸塾。)」を高島地域農業センターと共催したところ 8 名の受講があり、栽培管理技術などを学ぶ講座を全 9 回開催しました。栽培希望者へは、個別相談を重ね、植栽に向けて品種選定や簡易棚の設計などを支援しました。



写真1 園芸塾における現地実習

(3)生産者の組織化と産地戦略策定への働きかけ

関係機関に対して、生産者組織の設立の必要性を説明するとともに、生産者にも加入への働きかけを行い、加えてぶどうを含めた市内果樹産地の課題解決と発展を目的に、産地戦略の策定に向けた働きかけを行いました。

【普及活動の成果】

モデル生産者 3 名は今年作の反省から「着色改善のための資材導入」や「施肥設計を改善」するなど、安定生産に向けて自ら対策を講じることができるようになりました。また、園芸塾の受講生のうち 4 名が計 16a のぶどうを新たに植栽され、市内の栽培面積が拡大しました。さらに、管内で初めてぶどう生産者組織が会員 19 名で設立されるとともに、市全域を網羅する初の果樹産地戦略として「高島市果樹産地構造改革計画」が策定されました。

今後も、生産者組織を通じた研修会の開催や、関係機関と連携した更なる新規生産者の掘り起こしと面積拡大を図るほか、策定された計画に基づく果樹振興を進めていきます。

◎対象者の意見

ぶどうの植栽に向けて、棚の設計や建設の支援など、丁寧にアドバイスいただきました。初めて独りで管理することになるので、引き続き支援をお願いします。(園芸塾受講生)